

**次期総合計画策定に向けた
若手職員のまちづくりワークショップ
結果報告書**

平成30年6月

相模原市 企画政策課

I 実施概要

1 目的

次期総合計画策定に当たり、本市の将来のまちづくりを担う若手職員の自由な発想により、まちづくりに関するアイデアを提案してもらうことを目的とする。また、ワークショップを通じて本市を取り巻く社会経済情勢の変化や今後想定される課題、相模原市総合計画の概要や策定過程について学び、若手職員の総合計画に対する意識の醸成を図る。さらにワークショップを通じて人脈を広げることで、自所属における今後の施策・事業等の立案に当たっての一助としてもらう。

2 対象者

採用2年目から6年目の職員（平成25年度採用から平成29年度採用）
各局から推薦のあった34名（当日4名欠席）

3 実施日時

平成30年6月13日（水）9時00分～17時00分
けやき会館2階 職員研修所大研修室

4 内容

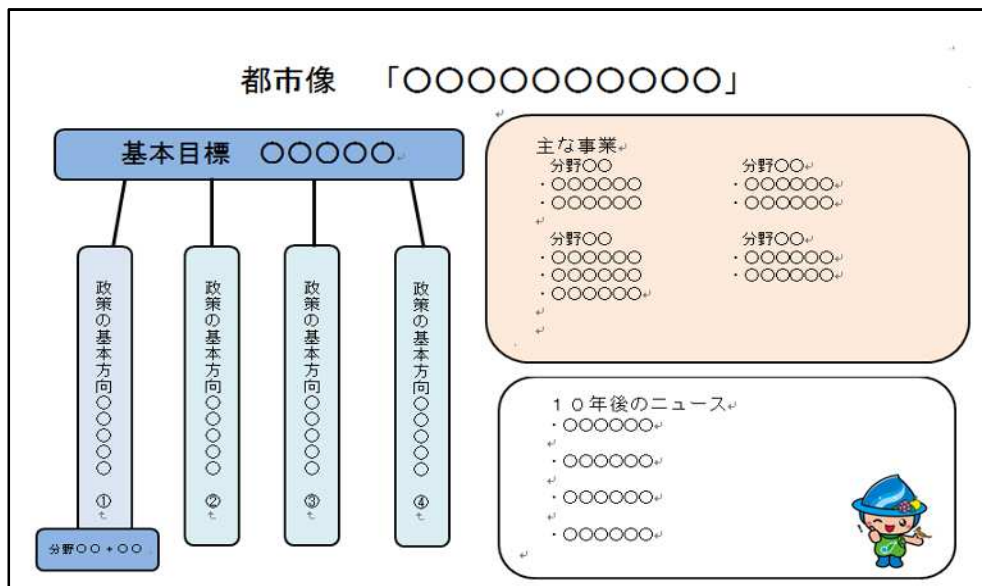
- （1）総合計画の概要、相模原市の現状についての説明
- （2）グループワーク
 - ① テーマごとの良いところ（市の強み）、課題、普段業務で感じること
 - ② 分野ごとの施策・事業
 - ③ 政策の基本方向、基本目標
 - ④ 10年後のニュース
 - ⑤ 都市像
- （3）発表

II ワークショップについて

1 ワークショップの目標（成果）

施策、政策の基本方向、基本目標、都市像に関する意見交換をしてもらい、最終的に「若手職員版 次期総合計画」を作成し、1枚の模造紙にまとめることを目標とした。

■模造紙完成イメージ



2 ワークショップの実施方法

(1) グループ分け

参加者をテーマごとに6つのグループに分け、グループごとにワークショップを実施した。グループは現所属課及び前所属課を考慮し、決定した。

班	テーマ	想定分野
1	子ども・教育	子育て、青少年、教育、生涯学習、障害児、貧困 等
2	共生・健康	福祉、貧困、高齢者(介護含)、障害者、健康、医療、人権・男女、国際化(理解)、世界平和 等
3	安全・安心	防災(土木インフラ含)、消防、保健衛生、安全・安心、景観・住環境 等
4	活力	雇用、産業、商業、農業、観光、土地利用、拠点形成、基地、道路、交通 等
5	交流	スポーツ、文化、国際化(交流)、区政(分権)、市民参加・協働、行政サービス、広聴広報 等
6	環境	温暖化、環境教育、廃棄物、森林環境、下水道・浄化槽・簡易水道、環境保全、生活環境、都市緑化(公園含)、野生鳥獣、生物多様性 等

(2) 役割分担

グループごとに、「進行役」「時計係」「書記」「発表係」を決め、ワークショップを進めていった。

担当	役割内容
進行役	メンバー全員（自分も含めて）の意見を必ず聞くようにする。
時計係	グループワークの時間配分を考えながら、時間内に結論が出るようにする。
書記係	そこで出た意見やアイデアを、ワークシート及び模造紙にまとめながら、グループとしての意見を集約する。
発表係	グループとしてまとめた意見を発表する。グループワーク中もどのように発表するか考えながら作業する。

(3) ワークショップの約束事

グループワークをするにあたり、以下の約束事を設定し、ワークショップを実施した。

- 自分ばかり話さないようにしましょう
- 始めから意見を否定しないようにしましょう
- 楽しい雰囲気話し合いましょう
- 意見を付け足して、発想を広げていきましょう
- 必ず結論を出しましょう

(4) ワークショップの流れ

以下の流れで実施した。

	内容	作業
グループ ワーク①	○テーマごとの良いところ（市の強み）、課題、普段業務で感じること（市民が求めているもの、こんなものがあれば良いな等）を、抽出する。	ワークシート①作成
	○分野の設定、施策・事業の検討 ワークシート①で抽出したことを検討材料にし、分野ごとに施策、事業を検討する。また検討した施策、事業の中から主な事業を分野ごとに選定する。	ワークシート②作成 模造紙記入
グループ ワーク②	○政策の基本方向 ワークシート②で決定した分野別の事業をグループ分けし、政策の基本方向（タイトル）を検討する。	模造紙記入
	○基本目標 決定した政策の基本方向から、基本目標（タイトル）を検討する。	
グループ ワーク③	○10年後のニュース これまでのグループワークで決定したことを実施した結果、10年後の相模原市でどんなニュースが予想されるか検討する。	模造紙記入
発表①	○検討内容発表 グループワーク①～③の検討内容をまとめた模造紙で発表する。	
グループ ワーク④	○都市像 各班の発表を聞いて、テーマは関係なしに全市的な視点で、都市像を検討する。	模造紙記入
発表② & 投票	○都市像発表 各グループで決定した都市像を発表する。その後、投票を行い、全体で1つの都市像を決定する。	

III 実施結果

1 総合計画の概要、相模原市の現状についての説明

まず、事務局（企画政策課）より、総合計画の概要、次期総合計画の策定プロセス、総合計画の進行管理といった、総合計画に関することを説明し、その後、相模原市の人口・財政等について説明した。説明資料については、P 36 「総合計画の概要、相模原市の現状について」の説明資料」を参照。



2 グループワーク①

内容『テーマごとの良いところ、課題、普段業務で感じることの抽出』
『分野ごとの施策・事業の検討』

(1) テーマごとの良いところ、課題、普段業務で感じることの抽出

まず、グループごとに、テーマごとの良いところ、課題、普段業務で感じることを付箋とワークシートを使って、抽出した。

■ワークシート①作成イメージ

テーマごとの良いところ／テーマごとの課題／普段業務で感じること ワークシート					
テーマ ^{a)}	交流 ^{a)}	班 名 ^{a)}	5 班 ^{a)}	メンバ ー 氏名 ^{a)}	〇〇、〇〇 ^{a)}
テーマごとの良いところ(市の強み等) ^{a)}	・地域にプロスポーツチームが多い^{a)} ・.....				
テーマごとの課題 ^{a)}	・スポーツを継続的に行っている市民の割合が他市と比べて低い^{a)} ・.....				
普段業務で感じること(市民が求めているもの、こんなものがあれば良いな等) ^{a)}	・土日等、スポーツ施設の予約が中々取れないとよく市民から相談がある^{a)} ・託児所付きのスポーツ施設があったら良いと思う^{a)} ・.....				

※作成したワークシートについては、一部、正確でない表現や情報が含まれている可能性がありますのでご了承ください。

子ども・教育（1班）

テーマごとの良いところ／テーマごとの課題／普段業務で感じること ワークシート

テーマごとの 良いところ （市の強み 等）	・子育て支援センターができたことで妊娠期から子育て期まで切れ目のない支援が可能 ・乳幼児全戸訪問などサポートが充実している ・保育所等の入所決定率が政令市の中で高い ・特別支援級が全校に配置されている ・体験活動が充実しており、子どもが自然との共生を楽しみながら学べる ・教員の女性の管理職が40%で全国上位 ・小中学校の数が多 ・子どもが遊べる施設（公園）が多い ・公民館・図書館が身近で利用しやすい
テーマごとの 課題	・子どもの学力が低い ・子どものスポーツへの興味が比較的薄い ・保健所等の施設へのアクセスが悪い ・出生率が全国・県平均より低い ・保育士が不足している ・市立の高校や特別支援学校を持っていない（連携に時間がかかる） ・地域によって子育て関連施設の配置にばらつきがある（学校含む） ・核家族化により、身近な相談者が少ない ・教員の質、数に問題がある ・男性の育児休暇取得率が低い
普段業務で感 じること（市 民が求めてい るもの、こん なものがあれ ば良いな等）	・学校の校庭を有効活用したい ・市民病院がほしい ・障害児をみることのできる病院がもっとあると良い ・一時預かりの場所を充実させてほしい ・公園がもっとほしい ・病児保育施設を増やしてほしい

テーマごとの良いところ／テーマごとの課題／普段業務で感じること ワークシート

テーマごとの 良いところ （市の強み 等）	・医療費助成が充実している ・北里大学病院がある ・窓口、電話で丁寧に対応する職員が多い ・山・森・大きな公園がたくさんあり、健康を意識した人が楽しんで運動できる ・市の土地は広いが各地に地域拠点がいろいろあるため、コミュニティがあり孤立が起こりにくい ・小学校での多文化（障害・考えなど）理解が活発で受容できている
テーマごとの 課題	・公的な医療機関が少ない（津久井地域の人等は大きな病院に行くのが大変） ・視聴覚に障害のある方への対応が不十分 ・高齢者への対応が地域によって違う ・職員の担い手不足 ・国際化への対応不足 ・女性が働きやすい社会に ・健康寿命を伸ばす
普段業務で感 じること（市 民が求めているもの、こんなものがあれば良いな等）	・機能が本庁地域に集まり過ぎている。3区で平均したサービスを提供する体制にしたい。 ・職員の能力を活用するために、能力の見える化、能力を活用した時やスキルアップの手当て ・健康で安心して暮らせる社会にしたい ・在宅ワークができる体制にしたい

テーマごとの良いところ／テーマごとの課題／普段業務で感じること ワークシート

テーマごとの 良いところ （市の強み 等）	・ H 2 7 地区防災計画を住民主導で地域特性に合わせて策定 ・ 避難所担当職員と地域住民のつながり ・ 保健師の訪問事業 ・ 防災無線の数が多い ・ 過去に大規模災害がない（安全アピールできるのでは？） ・ 汚水、雨水を別に流している（大雨が降ったときにあふれにくい） ・ 人と人のつながりが強い（自助力） ・ 難病患者一人ひとりに災害時に計画あり ・ 高度処理浄化槽（津久井地域）を活用して、窒素、リンが湖に流れないようにしている ・ 政令市であるため動きやすい ・ マニュアル化されている ・ 消費者生活センターの閉所時間
テーマごとの 課題	・ 地域ごとの防災意識の差 ・ 旧 4 町への災害時の対策 ・ 救急件数の増加（救急隊員は増えていない） ・ 消防団員のなり手不足 ・ 人の流動が多く、感染症予防が困難 ・ 健康意識が低い ・ 医療連携 ・ 情報の届け方 ・ 市民病院、医師の少なさ ・ 下水道の老朽化
普段業務で感 じること（市 民が求めているもの、こんなものがあれば良いな等）	・ 白黒つけたい相談がある（ドクター的な判断を求められる） ・ 医師の増加が必要

テーマごとの良いところ／テーマごとの課題／普段業務で感じること ワークシート

テーマごとの 良いところ （市の強み 等）	・ 駅近の開発ができる土地 ・ 各區に拠点となる駅がある ・ 新しい産業拠点をつくろうとしている（A & A など） ・ 基地があることにより、災害時の支援が受けられる ・ 都心に近いけど、緑区のような地域があって、観光面で期待できる ・ 市街地に農地が結構有る（災害時のオープンスペースになったりもする） ・ 工場の立地面が良い（住宅よりは税金を多く徴収できる）
テーマごとの 課題	・ 基地返還に時間がかかる ・ コンパクトシティの面で緑区の地域がかけ離れている ・ 予算がない ・ 民間のバス会社も人材が足りてないことが予想される ・ 企業が離れていっている ・ コミュニティバスをもっと上手く活かせないか ・ 広大な土地があっても、維持管理が追いつかない ・ 相模原駅前に高い建物、大きい建物がない ・ 緑区での人口減少 ・ 農家の高齢化、農地の減少 ・ 工場の跡地に家が建ったりする例が増加 ・ 公共交通を良くする必要もあるが、需要は減少（寄り合いタクシーですら存続が難しい状況） ・ 基地における窓口が上手く働いておらず、市に問い合わせが多い（米軍がオープンになる必要がある）
普段業務で感 じること（市 民が求めているもの、こんなものがあれば良い等）	・ 道路の整備が追いつかない ・ 基地の返還よりも騒音や米軍のマナーが問題 ・ 交通の便が悪い（特に緑区） ・ プレジャーフォレストのような施設で観光面を活性化できないか ・ 市民農園をもっと周知して、農家に若い世代の先生になってもらう ・ 工場については工場に特化した地域、家は住宅に特化した地域に住み分けると良いのでは

テーマごとの良いところ／テーマごとの課題／普段業務で感じること ワークシート

テーマごとの 良いところ （市の強み 等）	・ホームタウンチームが多い ・学生スポーツが盛ん ・陸上競技の誘致 ・山など、自然が豊かで、サイクリングができる環境がある ・道にアートがある ・七夕祭り ・女子美術大学がある ・小原宿本陣がある ・博物館、JAXA、遺跡がある ・全国規模の写真展をしている ・フォトシティさがみはら
テーマごとの 課題	・スタジアムの立地条件が悪い ・スタジアムの市民利用が制限されている ・プロが使っている環境で市民がスポーツを楽しめない ・スポーツ施設の駐車場が少ない ・空き地の活用ができていない ・公文書館（古き良き映画を公開）だけでなく、他の施設でも観れるようにすべき ・祭りなどの周知、利便性が足りない ・外国人が来たいと思う施設がない
普段業務で感 じること（市 民が求めているもの、こんなものがあれば良い等）	・パブリックビューイングが充実していたら良い ・プロチームだけでなく幼児のスポーツにも力を入れてほしい ・グリーンホールなどで公文書館のフィルムを公開する ・祭りの充実（若者の定住を目指す） ・海外向けに情報発信

テーマごとの良いところ／テーマごとの課題／普段業務で感じること ワークシート

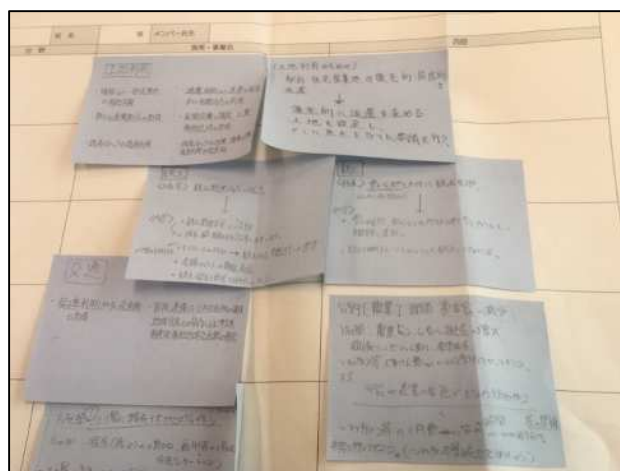
テーマごとの 良いところ （市の強み 等）	・ワンストップサービスの実施 ・市民会議での意見を聞きやすい ・3区で情報共有しており、まとまりがある ・空家のことについて、周知している
テーマごとの 課題	・外国人が多いが、英語を話せる職員が少ない ・外国籍の人に対応できるサービスが整っていない ・市民の意見を実行に移せていない ・市民会議で発信する人が決まっている（同じ人の意見しか拾えていない） ・日曜日に閉所している ・HPを充実させたが、アクセスが低いなど効果がない（すもうよ緑区など）
普段業務で感 じること（市 民が求めてい るもの、こん なものがあれば良いな等）	・通訳のタブレットの設置 ・外国人に分かりやすいフローチャートの用意 ・駅近に出張所がほしい ・町田に支所をつくる ・広報誌を充実させてほしい

テーマごとの良いところ／テーマごとの課題／普段業務で感じること ワークシート

テーマごとの 良いところ （市の強み 等）	・相模原駅、橋本駅の開発、豊かな自然など、他市にないポテンシャルがある ・温暖化対策、風水害対策、健康被害
テーマごとの 課題	・ごみの不法投棄（未利用地など捨てやすい環境がある） ・津久井産材のブランド化ができていない ・環境資源の有効活用ができていない ・山の未整備 ・交通不便 ・自然とのふれあい魅力発信不足
普段業務で感 じること（市 民が求めているもの、こんなものがあれば良いな等）	・未利用地の有効活用（太陽光パネルなどの再生可能エネルギー、都市緑化など） ・環境だけでなく、経済面の付加価値も考える ・ごみを捨てにくい環境づくり ・津久井産材など、観光資源、地域特性をアピールする ・市内の大学や市民団体を活用する

(2) 分野の設定、分野別の施策・事業の検討

次に、作成したワークシート①を検討材料にし、テーマごとに分野を設定し、付箋とワークシートを使って、分野ごとに施策、事業を検討した。



■ワークシート②作成イメージ

分野別の施策／事業案 ワークシート②					
テーマ	交流	班 名	5班	メンバー 氏名	〇〇、〇〇
番号	分 野	施策・事業		内容	
1	スポーツ	・誰もがスポーツに親しめる施設の拡充 ・..... ・.....		・託児所がある施設やバリアフリー化されている施設を増やす ・..... ・.....	
2	文化	・..... ・..... ・.....		・..... ・..... ・.....	
3	〇〇	・..... ・..... ・.....		・..... ・..... ・.....	
4	〇〇	・..... ・..... ・.....		・..... ・..... ・.....	
5	〇〇	・..... ・..... ・.....		・..... ・..... ・.....	

分野別の施策／事業案 ワークシート

分 野	施策・事業	内容
教育	・親子で考える家庭学習の実施 ・大学と連携した学習支援	・保護者の力も借りないといけないような宿題を定期的に出すなど、家庭学習の習慣の定着を目指す ・大学と連携をとり、小中学生に勉強を教える、学校の空き教室を活用する
子育て	・子育て世代の繋がり支援 ・コミュニティ保育支援の拡充	・子育て世代同士の輪ができるように繋ぎ役を担うことや、サロン等の開催を仲介する ・学校の空き教室や校庭を使い、一事預かり事業を行うことや、子供の遊び場を確保する（地域全体で安心して子育てできる環境）
教育・子育て	・自然を活用した教育・保育人材の確保	・自然の中での保育方法を確立し、その分野に興味がある保育士を呼び込む（人材確保にもなる）

分野別の施策／事業案 ワークシート

分 野	施策・事業	内容
福祉	・ どの地域でも同等のサービスが受けられる体制 ・ 情報弱者への情報提供体制	・ 各区に人材センターを設置し、地域の専門的な人材を活用することで、同等のサービスを受けられるようにする（本庁地域の事務の分権化、職員の専門性の見える化） ・ 聴覚障害者情報提供施設
健康	・ 相模原の自然と公園を生かした健康長寿社会	・ 緑区の自然や大きな公園を活用した健康増進イベントの実施
人権	・ 働きやすい環境づくり	・ テレワークオフィスの提供
医療	・ どの地域でも同等のサービスが受けられる体制	・ 福祉分野「どの地域でも同等のサービスが受けられる体制」事業の内容と同様
国際	・ 共生啓発フェスの開催	

分野別の施策／事業案 ワークシート

分 野	施策・事業	内容
防災	・ 地区防災計画の強化と充実 ・ 市民の防災意識の向上 ・ 地域のつながりの強化	・ 地区の防災マップを地域住民と協働して作成する ・ 市民利用、市民啓発ができる防災センターの新設 ・ 地域での訓練を増やす
消防	・ 地域のつながりの強化 ・ 消防団の加入促進事業 ・ 救急車の適正利用促進事業	・ 企業と協定を結ぶ
医療保健	・ 相談窓口の一元化（救急利用の抑制） ・ 相談窓口への医師、保健師の配置 ・ 保健師の知名度を上げる ・ 医師会との連携強化	・ 研修医を活用した相談窓口の拡充 ・ 医師会を市の内部組織にする
住環境	・ 高度処理浄化槽の設置 ・ 自転車事故・交通事故を減らす ・ 犯罪件数を減らす ・ 消費者被害の件数を減らす ・ 下水管の耐震化、超寿命化 ・ 車イス利用者が移動しやすい道作り	・ 設置率を増加させる ・ 免許証返還のメリット、自転車道の更なる整備 ・ 防犯カメラの設置促進事業 ・ 悪質商法の疑似体験

分野別の施策／事業案 ワークシート

分 野	施策・事業	内容
土地利用	・ D E P O T の返還推進 ・ 新たな拠点の形成 ・ 既存ストックの高度利用 ・ 駅前等の優先的、段階的な返還	・ 補給廠返還の推進及び民間活力の利用 ・ 民間企業の誘致、工業専用地域の形成 ・ 既存ストックの改築・増築の際に高度利用を促進する ・ 優先的に返還を求める土地を設定し、そこに焦点を当てた要請を行う
観光	・ 豊かな自然を利用した観光推進事業 ・ 観光関連施設の拡充	・ 豊かな自然と都心からのアクセスの良さ等をアピールした企業誘致、自然を特徴とした観光エリアの形成 ・ 現在ある観光施設を観光関連企業へ紹介、観光協会・民間企業と連携しモデルコース作成、各種イベントの開催支援、観光情報を発信する施設の拡充
交通	・ 新交通システム構築事業（利用しやすい交通網、緑区に新たな交通網）	・ 官民連携した利用しやすい交通網、地域住民の協力による交通手段による交通網の補完（特に津久井、相模湖、藤野エリア）
農業	・ 市民が農業に触れ合う機会の増大	・ 農業体験（つみとり作業等）などのイベントを開催する
雇用・産業	・ 工場に特化したまちづくり（工場近隣に住む人への対策も含む）	・ 工場地区には居住エリアをつくらないようにする（税金増収、雇用の創出） ・ 市、工場、住人で話せる場所として工場をオープンにする

分野別の施策／事業案 ワークシート

分 野	施策・事業	内容
スポーツ	・ 子供から高齢者まで生涯スポーツに関わる環境の整備 ・ 地域の特性を生かしたスポーツの推進	・ 幼少から大人まで継続してスポーツに関わる（観る・やる）ことができる環境の充実、トップアスリートなどの人材育成 ・ ボート、サイクリング、まちさんぽ等の施設がなくてもスポーツを楽しむことができる競技の普及
カルチャー	・ 新しい相模原文化の創生 ・ 伝統の再発見	・ 藤野のテーマパーク化、相模湖プレジャーフォレストと連携して街全体をアートにする、「フォトシティさがみはら」を全国規模から世界規模に拡大（広報やSNSで周知し、参加しやすい環境づくり） ・ 今ある伝統を周知、発信する
サービス	・ 市民の誰もが利用しやすい行政サービスの提供	・ 窓口の利便性の向上（町田出張所の新設やタブレットを使用した外国人の通訳サービスの充実など）、マイナンバーカードの有効活用、開庁時間の延長

分野別の施策／事業案 ワークシート

分 野	施策・事業	内容
温暖化・廃棄物	・ 良好な社会環境の創出	・ 未利用地を太陽光パネルの設置や都市緑化などに利用し有効活用する（経済・環境・生活など複合的な付加価値が見込める）
環境保全	・ 持続可能な森林環境の形成	・ 津久井産材をブランド化し安定した産業へ成長させる（津久井産材の付加価値を探る、市のPR活動）、林業の担い手を確保して森林保全
環境教育	・ 身近に人と自然が共生する環境の形成	・ 自然環境と触れ合える場の整備（津久井地域のハイキングコースや森林公園の整備、川沿いで水と触れ合える場の整備）、整備した場所に地産地消の売店を設置し売り上げの一部を環境保全にあてる
生活環境	・ 自然豊かな整備の促進	・ 未開発の津久井地域において自然豊かな住環境の整備促進（緑あふれた住宅、高所得者やセカンドライフをターゲットにし税収入の増加）

3 グループワーク②・グループワーク③

グループワーク② 内容『政策の基本方向及び基本目標の検討』

グループワーク③ 内容『10年後のニュース』

(1) 政策の基本方向及び基本目標の検討

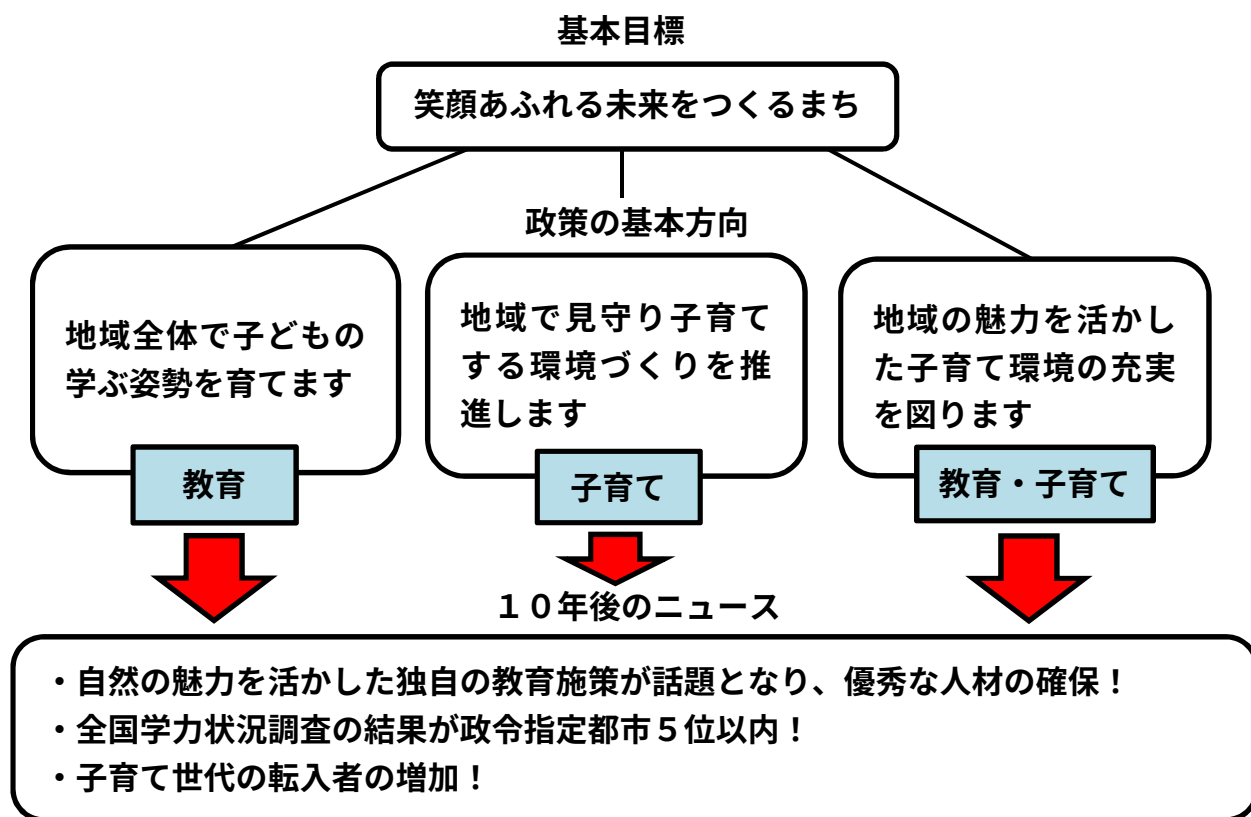
グループワーク①で決定した分野別の事業をグループ分けし、テーマごとの政策の基本方向（タイトル）を検討した。その後、決定した政策の基本方向から、基本目標（タイトル）を検討した。

(2) 10年後のニュース

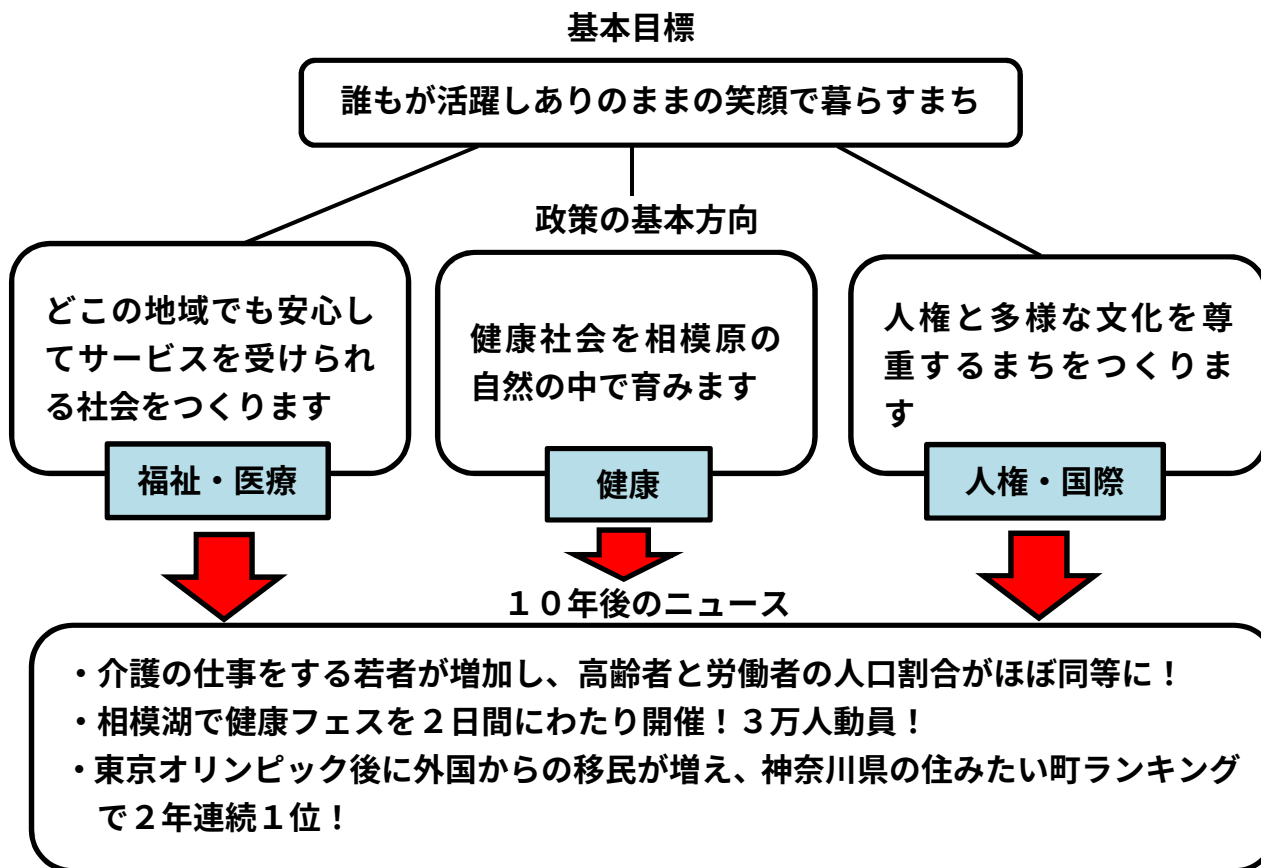
これまでのグループワークで決定したことを実施した結果、10年後の相模原市でどんなニュースが予想されるか、どんなニュースがあったら良いか検討した。



テーマ 子ども・教育（1班）



テーマ 共生・健康（2班）



テーマ 安全・安心（3班）

基本目標

土台がしっかりした安全・安心都市

政策の基本方向

市民とともに災害に
負けないまちづくり
をすすめます

防災・消防

どこにいても安心して
生活できるまちづ
くりをすすめます

住環境

頼れる医療・保健の
体制をつくります

医療保健

10年後のニュース

- ・救急出動件数大幅減少！救命率の増加も！
- ・相模原市、住みたい町ランキング1位に！
- ・全国初！大規模防災訓練を実施！
- ・注目される悪質商法の疑似体験事業！モデルは相模原市！

テーマ 活力（4班）

基本目標

市民の活力を生み出す経済発展都市

政策の基本方向

都市拠点の更なる
発展をめざし
ます

土地利用

働きやすい環
境をつくりま
す

雇用・産業

自然を活かした市
民協働の地域活性
化をめざします

農業・観光

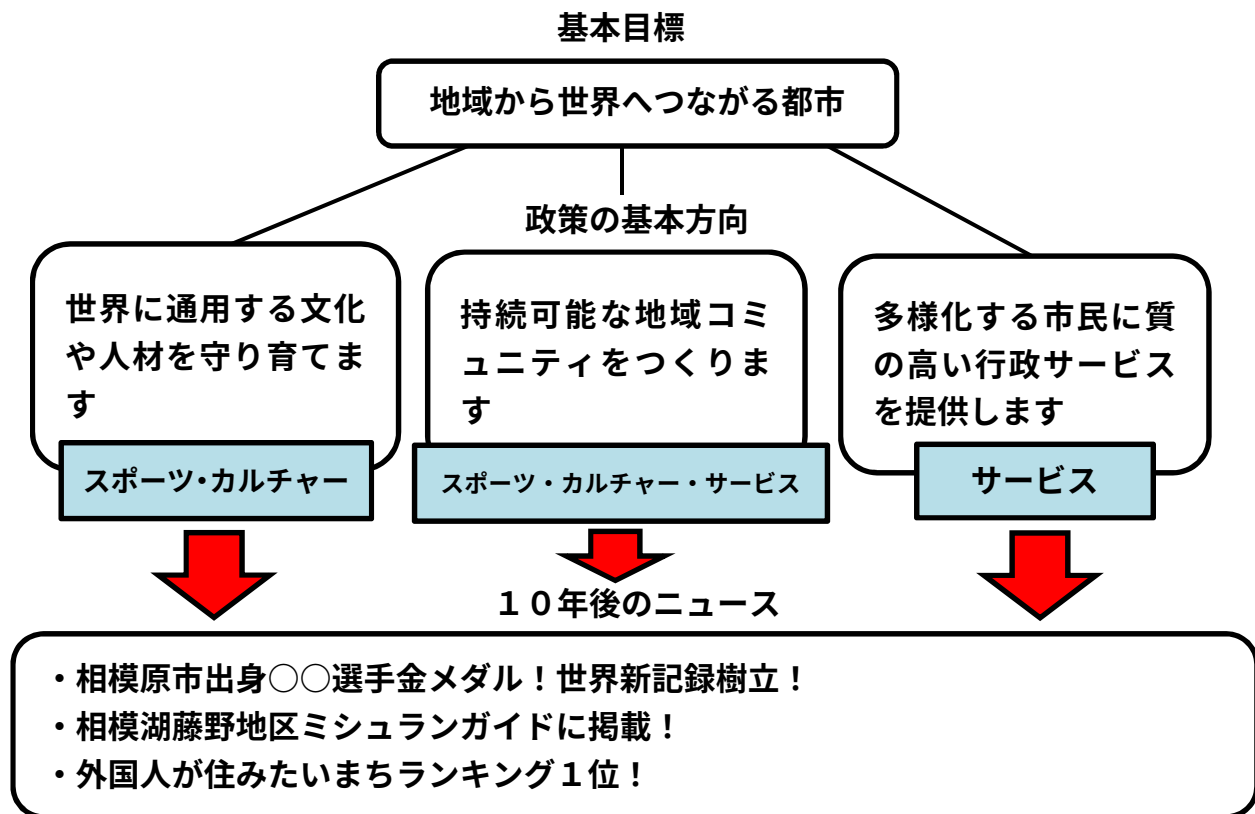
市民の暮らしに合
わせた交通手段の
構築をめざします

交通

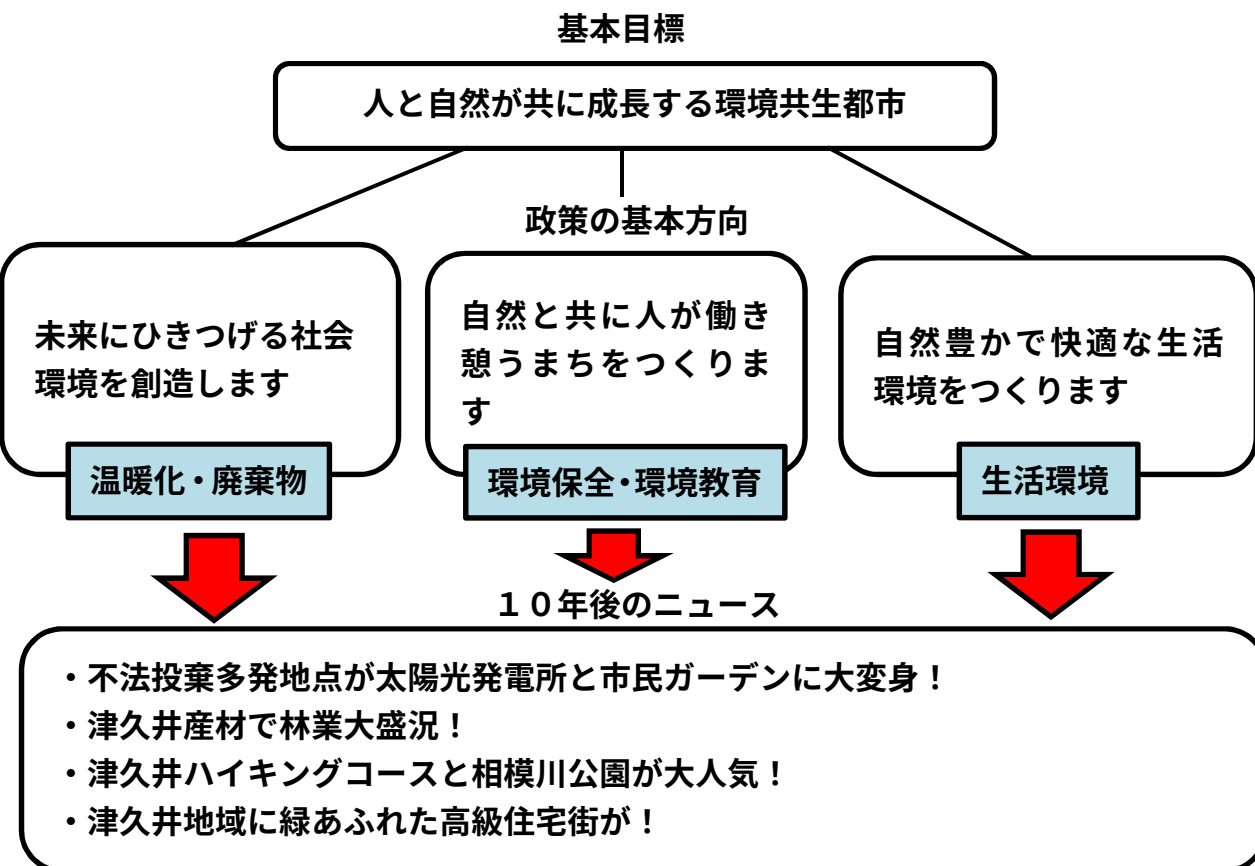
10年後のニュース

- ・相模原市がコンパクトシティのモデル都市に選ばれました！
- ・都市近郊のレジャーが若者たちのブームとなり相模原市が注目を集めています！

テーマ 交流（５班）



テーマ 環境（６班）

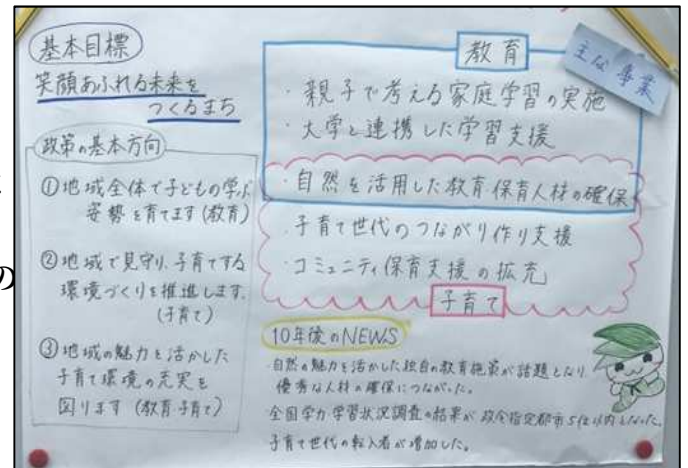


4 検討内容発表

作成した模造紙と、グループワーク①から③を通してグループで検討した内容について、グループごとに発表を行った。

(1) 子ども・教育（1班）

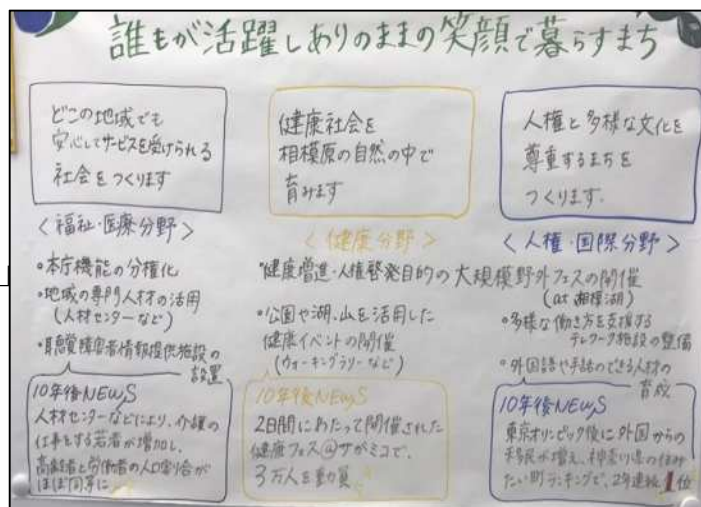
- ・教育と子育てを充実させてみんなが笑顔になるよう、基本目標を「笑顔あふれる未来をつくるまち」と設定しました。
- ・政策の基本方向「地域全体で子どもの学ぶ姿勢を育てます」については、親子で考える家庭学習の実施、大学と連携した学習支援を主な事業として考えました。
- ・親子で考える家庭学習の実施は、保護者と一緒に考えるような宿題を定期的に出し、家庭学習の習慣の定着や学ぶ楽しみのきっかけづくりを目指します。子どもたちが自ら学ぶ意識が向上すれば、今は政令指定都市の中で下位ではありますが、ランキングもあがっていき、「全国学力状況調査の結果が政令指定都市5位以内！」のニュースが予想されます。
- ・政策の基本方向「地域で見守り子育てする環境づくりを推進します」については、子育て世代の繋がり支援とコミュニティ保育支援の拡充を主な事業として考えました。
- ・子育て世代の繋がり支援は、子育て世代同士の輪ができるように繋ぎ役を担うことや、サロン等の開催を仲介します。コミュニティ保育支援の拡充事業は、学校の空き教室や校庭を使い、一事預かり事業を行うことや、子供の遊び場を確保することを目的とします。それらの事業を進めていくことにより、「子育て世代の転入者の増加！」をニュースとして予想しました。



- ・政策の基本方向「地域の魅力を活かした子育て環境の充実を図ります」については、自然を活用した教育・保育人材の確保を主な事業として考えました。
- ・相模原市の特徴である自然を生かした保育方法を確立し、その分野に興味がある保育士を呼び込んで、人材確保をし、子育て環境の充実に繋げていきます。それが話題を呼びその事業がニュースになることが予想されます。

(2) 共生・健康 (2班)

- 基本目標を「誰もが活躍しありのままの笑顔で暮らすまち」と掲げました。
- 相模原市は広く、地域によって生活環境が違い、福祉や医療のサービスを迅速に受けることのできる地域とそうでない地域があることから、福祉と医療分野の柱として「どこの地域でも安心してサービスを受けられる社会をつくります」を政策の基本方向として設定しました。このことを実現するために、介護職や聴覚障害者などに対応できる専門的な人材の不足を課題とし、本庁にある機能を分権化することや、各地域に人材センターを設置し、地域にいる学生や主婦などの、人材を発掘すること、専門的な人材を増やしていくことを主な事業として考えました。
- 都内、横浜や川崎市と比較したときに、相模原市の強みは、津久井地域や都市部の公園など、自然を多く保有していることだと考え、それらの自然を浴びながら健康社会をつくるという考えから、健康分野の柱として「健康社会を相模原の自然の中で育みます」を政策の基本方向として設定しました。このことを実現するために、相模湖などで健康増進人権啓発を目的とした大規模野外フェスや、公園や湖、山を活用したウォーキングラリーの開催など、相模原の自然を活用したものを主な事業として考えました。
- オリンピックの開催で国際化がさらに進んでいくこと、男女共同参画などの人権に関することから注目されていくことから、人権と国際分野の柱として「人権と多様な文化を尊重するまちをつくります」を政策の基本方向として設定しました。このことを実現するために、育児休暇中の女性など短い時間なら働くことのできる人のために、テレワークオフィスを設置し、多様な働き方を援助することや、手当を支給するなどして、外国語や手話のできる専門的知識を持っている職員を確保することを主な事業として考えました。

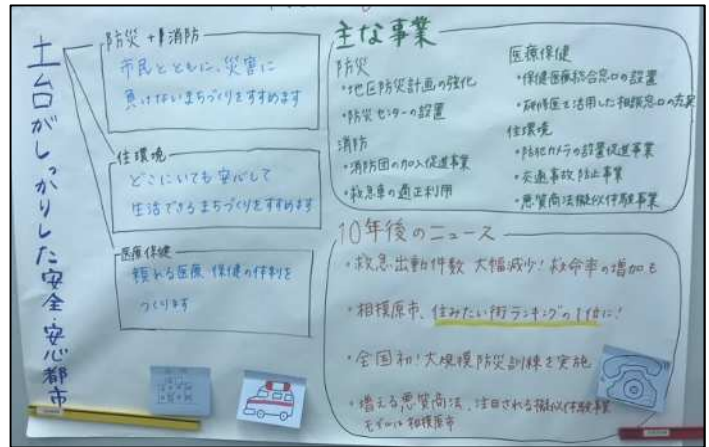


- これらの事業を進めていくことで、「介護の仕事をする若者が増加し、高齢者と労働者の人口割合がほぼ同等に!」、「相模湖で健康フェスを2日間にわたり開催! 3万人動員!」、「東京オリンピック後に外国からの移民が増え、神奈川県に住みたい町ランキングで2年連続1位!」といったニュースが予想されると考えました。

(3) 安全・安心 (3班)

- ・基本目標を「土台がしっかりした安全・安心都市」としました。

- ・分野を防災、医療保健、消防、住環境に設定し、政策の基本方向については、防災と消防分野の「市民とともに災害に負けないまちづくりをすすめます」、住環境分野の「どこにいても安心して生活できるまちづくりをすすめます」、医療保健分野の「頼れる医療・保健の体制をつくります」の3つを考えました。



- ・防災分野については、まちづくりセンター単位にある地区防災計画の強化及び見直しをすることや、厚木市にある防災センターのような、市民啓発ができる施設を相模原市にも設置し、市民の防災意識の向上を図ることを主な事業として考えました。また、市民の意識を向上させる取組の1つとして大規模防災訓練を実施し、それが「全国初! 大規模防災訓練を実施!」としてニュースになると予想しました。
- ・消防分野については、消防団の加入率が近年下がってきている状況がある中で、防災センターでの普及啓発などで加入促進をしていくことや、医療総合窓口を設置し、救急車の利用判断をそこで判断してもらうことにより適正利用を進めることを主な事業として考えました。それらの事業を実施することにより、「救急出動件数大幅減少とそれに伴って救命率の増加!」のニュースが予想されると考えました。
- ・住環境分野については、防犯カメラの設置の促進を主な事業として考えました。防犯カメラの設置促進は犯罪防止だけでなく、交通安全対策にも効果があると思われる。それらの事業を実施することにより市民が安全で安心して生活できるため、「相模原市、住みたい町ランキング1位に!」のニュースを予想しました。



- ・消費者の安全対策としては悪質商法の疑似体験事業を考えました。振込み詐欺等の悪質商法は普通の周知だけでは中々怖さが分からない部分もあるので、市民の同意を得て、実際に体験してもらいます。このような取組は他の自治体ではやっていないため、「注目される悪質商法の疑似体験事業! モデルは相模原市!」のニュースを予想しました。

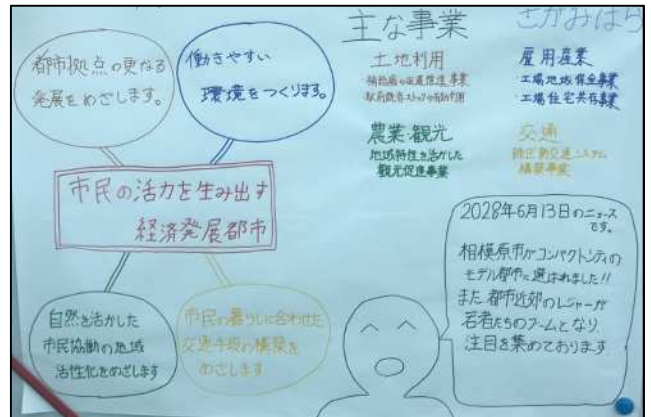
(4) 活力(4班)

- 基本目標を「市民の活力を生み出す経済発展都市」と掲げました。

それに伴い4つの柱を設定しました。

- 1つ目は、土地利用分野の柱として

「都市拠点の更なる発展をめざします」を政策の基本方向に考えました。補給廠返還があった際に開発計画や予算がないとすぐに活用できないこと、相模原駅前などは高度利用があまりされていないことを課題とし、これらの課題を解決するために、段階的な補給廠返還を推進していくことや、既存ストックをうまく活用しながら、駅を発展させていき、新たな都市拠点を形成していくことを主な事業として考えました。



- 2つ目は、雇用・産業分野の柱として「働きやすい環境をつくります」を政策の基本方向に考えました。この政策の基本方向の事業については、工場で働く方の環境のことを主に考えました。相模原市では工場の立地を求める声が多いと捉えていますが、ほとんどの人が保有している土地を、高く売れる住宅メーカーに売ってしまうため、工場が立地できる場所が中々ない状況があります。このことを解決するために、工場エリアには住宅を新たに建設しないといったルールづくりを、自治体が進めていくといった事業を考えました。
- 3つ目は、農業と観光分野の柱として「自然を活かした市民協働の地域活性化をめざします」を政策の基本方向に考えました。人口減少、高齢化の中で、農家や農地が減っている状況を課題とし、これらの課題を解決するため、収穫作業といった農業体験を市民向けに開催することや、市民農園を設置することで、市民と農業のふれあいの場をつくる事業を考えました。農作業を分担することにより、農家の負担減少につながり、また、相模原市には市街地に田畑も多いので、農業とのふれあいが容易にでき、そのことが観光につながるとも想定されます。
- 4つ目は、交通分野の柱として「市民の暮らしに合わせた交通手段の構築をめざします」を政策の基本方向に考えました。交通システムを運営する会社の人材不足が慢性的にあり、必要な路線があっても増やすことが難しいことが課題とし、このこ

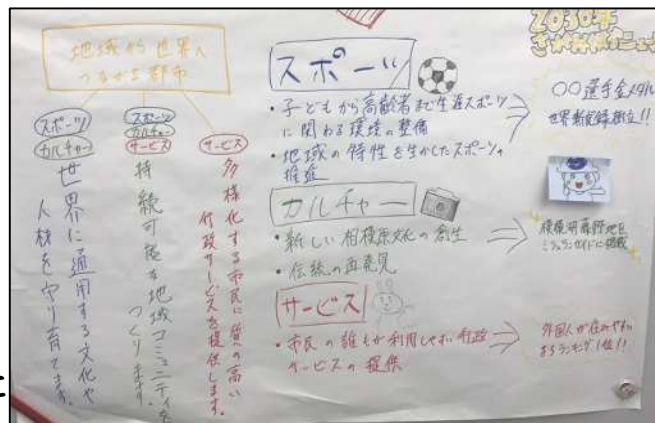
とを解決するために、乗り合いタクシー等の新しい交通システムの構築を主な事業として考えました。

- これらの事業を進めていくことで、交通網が整備され「相模原市がコンパクトシティのモデル都市に選ばれました!」、農業を経験できる観光都市として、「都市近郊のレジャーが若者たちのブームとなり相模原市が注目を集めています!」といったニュースが予想され则认为ました。



(5) 交流 (5班)

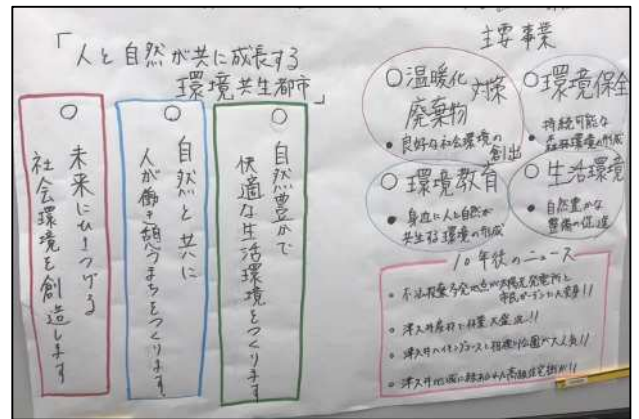
- まず3つの柱として「スポーツ」、「カルチャー」、「サービス」を分野として設定し、それらをまとめる基本目標として、「地域から世界へつながる都市」と決定しました。この基本目標は、地域交流を活発にしながら、世界を視野にいれながら成長していく都市を目指すために考えました。
- 「スポーツ」分野については、ホームタウンチームが多いことや、学生スポーツが盛んであるにも関わらず、相模原市出身のトップアスリートがあまり輩出されていないこと、スタジアムの立地条件が悪く、また市民利用が制限されていること、財政面で中々新しい施設が建設できないことなどを課題として考えました。
- それらの課題を解決するために、パブリックビューイングなどを頻繁に開催し、市民の関心を高め、子どもからトップアスリートを目指す逸材を発掘し、みんなで成長を見守りながらトップアスリートを育てていく「子供から高齢者まで生涯スポーツに関わる環境の整備」と、藤野地域などの自然を生かしたトレイルランニングやサイクリングといったスポーツの活性化をすることで、施設新設等の財政投資をせずに、市民にスポーツを親しんでもらう環境をつくる「地域の特性を生かしたスポーツの推進」を主な事業として考えました。
- 「カルチャー」分野については、相模原市にはたくさん文化がありますが、そのことが市民にうまく周知されていないことを課題として考えました。
- それらの課題を解決するため、相模湖プレジャーフォレストや藤野芸術の道などを、町全体がテーマパークであるような宣伝をして、まちぐるみで文化をつくり観光客を呼ぶことや、現在でもアジア地域からの参加者がいるフォトシティさがみはらをさらに周知し、もっと世界規模に拡大するといった「伝統の再発見」及び「新しい相模原文化の創生」を主な事業として考えました。
- 「サービス」分野については、外国人の来庁者がいることや多忙で市役所に来ることができない方がいるなど、サービスが多様化していることを課題として考えました。



- それらの課題を解決するため、タブレットを窓口配置し、翻訳アプリを使用して外国人とコミュニケーションをとることや、相模原駅、橋本駅、相模大野駅といった主要駅に窓口を新設することで時間がない人に対応するといった「市民の誰もが利用しやすい行政サービスの提供」を主な事業として考えました。

(6) 環境 (6班)

- ・「人と自然が共に成長する環境共生都市」を基本目標とし、その下に、温暖化・廃棄物対策分野を表現した「未来に引きつげる社会環境を創造します」、環境教育と環境保全の分野を表現した「自然と共に人が働き憩うまちをつくります」、生活環境分野を表現した「自然豊かで快適な生活環境をつくります」の3つの柱を設定しました。



- ・未来の相模原の環境を考えた際に、ごみの不法投棄や山の未整備で山林が荒れていくことが脅威と言え、その原因は相模原市の自然には未利用地などの人の目に届かない場所が多くあるからと考えられます。しかし、逆に言えば、相模原市には有効活用できる環境資源がたくさんあると言え、近年衰退している林業を始めとする第一次産業を発展していける可能性があります。
- ・自治体が未利用地を借り上げて太陽光パネルの設置や、サテライトオフィスの誘致、地域の人々が憩う公園の設置などを行うことにより、人が集まるようにし、社会の目を増やし、不法投棄を減らしていくといったことを、「未来に引き継げる社会環境を創造します」としての事業として考えました。
- ・津久井産材としてのブランドイメージはまだまだ発展できると考え、相模原市の大学と連携し、津久井産材のブランド力を高めることにより、全国的な需要を高め、それにより林業が発展し、さらに人手が必要になるため産業が発展していくという流れを考えました。また、産業だけでなく、サイクリングコースの整備や、相模川近くに公園やバーベキュー場を整備することといったことを、「自然と共に人が働き憩うまちをつくります」としての事業として考えました。
- ・津久井地域は人口減少が他地域より進行していく中で、自然と共生する範囲で、建蔽率が低く広い庭があるような住宅を造成していくことで、自然の中でゆったり住むことを目的とした富裕層の定着を狙うといったことを、「自然豊かで快適な生活環境をつくります」としての事業として考えました。



- ・これらの事業を進めていくことで、「不法投棄多発地点が太陽光発電所と市民ガーデンに大変身!」、「津久井産材で林業大盛況!」、「津久井ハイキングコースと相模川公園が大人気!」、「津久井地域に緑あふれた高級住宅街が!」といったニュースを予想しました。

5 グループワーク④・発表・投票

内容『都市像の検討』

各班の発表を聞いて、テーマは関係なしに全市的な視点で、都市像を検討した。そして検討した都市像について、グループごとに発表を行い、その後、投票により、今回のワークショップの都市像として、2班の都市像を選定した。

(1)「自然と生きる世界の交流拠点 さがみはら」 (1班)

相模原市の自然を大事にしていることや、近隣都市に負けない気持ち、外国人を含んだグローバルな展開をどの班も共通的な考えをもっていると感じました。それらを「世界」、「自然」、「交流拠点」といったことばで表現しました。

(2)「いきたいまち さがみはら(生きたい!行きたい!活きたい!)」 (2班)

「生きたい」、「行きたい」、「活きたい」の3つの意味を掛け合わせて「いきたいまち」と表現しました。

(3)「自然と調和し 希望あふれるまち Never give up さがみはら」 (3班)

相模原市の施策を市民全体で盛り上げようという考えを、「Never give up さがみはら」で表現しました。

(4)「市民と共に自然と共に笑顔を創る さがみはら」 (4班)

市民と一緒に取り組んでいくこと、自然を強みにしていることを各班の発表から共通的な考えとして感じました。また、「笑顔」というキーワードを取り入れていた班がいくつかあり、笑顔があれば街の活力が出ていると考えたこと、これから今までにない施策を創っていこうという思いから、「笑顔を創る」といった表現にしました。

(5)「自然と、文化と、あなたとつくる さがみはら」 (5班)

「あなたとつくる」については、自分自身が主役となることを表現しました。また、「つくる」については、作る、創る、造るなど色々な意味にあてはめるところから、あえて平仮名にしました。

(6)「人・自然・産業を連結し 未来へ運ぶ都市 さがみはら」 (6班)

相模原市にとって、人と自然と産業は欠かせないものであること、また、どの班も相模原の未来を盛り上げていこうという考えがあったことやこれから交通面でも発展の可能性のある相模原市を表現しました。

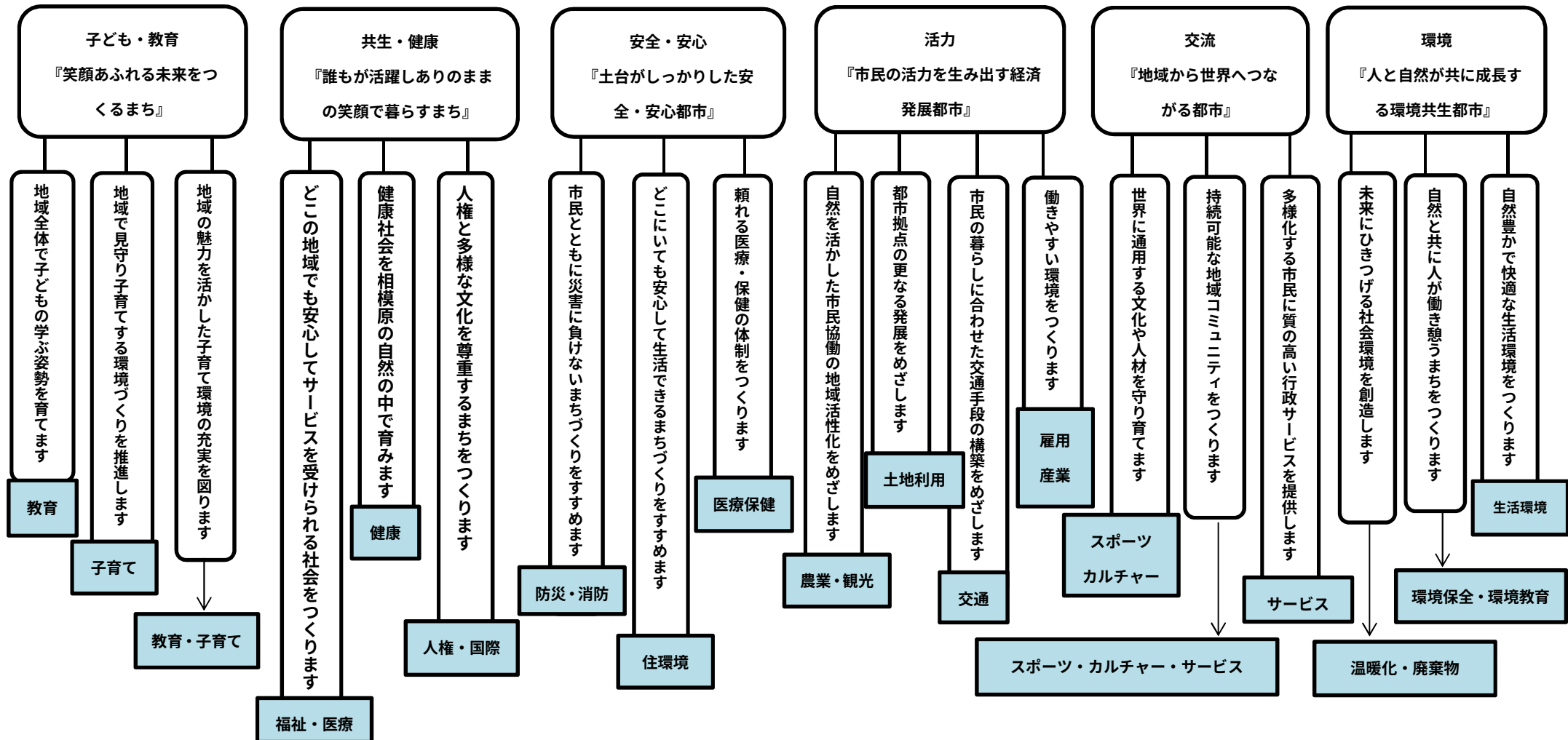
都市像

全体像

生きたい！行きたい！活きたい！

いきたいまち さがみはら

基本目標



6 参加者アンケート

研修後に参加者に対して、総合計画に関するアンケートを実施した。質問詳細は資料「参加者アンケート」参照。

(1) ワークショップ参加前の総合計画に対する認識について

1. 記載内容を意識しながら、業務をしていた	2	6.6%
2. 記載内容は知っているが、あまり意識して業務をしていなかった	13	43.3%
3. 存在は知っているが、あまり読んだことはなかった	12	40.0%
4. 存在は知っているが、読んだことはなかった	3	10.0%
5. 全く知らなかった	0	0%

(2) 総合計画を使用する機会について（複数回答）

1. 予算要求にむけて事業を検討・確認するとき	8	16.0%
2. 市民に市の取組等を説明するとき	11	22.0%
3. 市議会等で対応が求められたとき	2	4.0%
4. 他の部署や自治体から問い合わせがあったとき	7	14.0%
5. 自分の部署の計画を確認するとき	22	44.0%
6. その他	0	0%

(3) 職員が総合計画を意識しながら業務を実施するための工夫・取組・アイデア

- ・計画策定時だけでなく（何年目研修等）、今回のようなワークショップを開催する × 4
- ・新規採用時に研修を実施する × 3
- ・年度初めの年度計画策定時や課内回覧時などに、総合計画を確認する期間を設ける × 3
- ・所属に関わりのある施策がわかるように事務室内等に掲示するなど、普段、目に付くところに概要版等を掲出する × 2
- ・新採研修で事業をパズルのように総合計画にあてはめていくといったワークを実施する
- ・朝礼で定期的に周知する
- ・総合計画の全庁的な説明会を毎年開催する
- ・業務の根拠であるということへの意識付けをもっと行ったほうが良い
- ・もっと周知をする
- ・計画が市の職員でも分かりづらいため、もっと分かりやすく体系的に整理が必要
- ・担当として判断する場合に随時総合計画に沿った判断かどうか確認する
- ・新規採用職員以外への配布
- ・上司より説明
- ・事務分担時に総合計画を使って説明する
- ・常に自分が今している仕事が他の事業等に関わっているという認識が必要
- ・リンクから総合計画画面に飛べるようにする

(4) 市民に総合計画を見てもらう、興味をもってもらうための工夫・取組・アイデア

- ・平易な言葉を使うなど、分かりやすい記載、構成にする × 5
- ・各まちづくりセンターやその他施設に閲覧用として配架する × 3
- ・学校の授業で総合計画の説明会などを開催する × 2
- ・総合計画を簡単にまとめた簡略版やパンフレットをつくる × 2
- ・周知用の動画などを作成し、駅などで放送する × 2
- ・漫画にする
- ・市民向けの説明会の実施
- ・選挙中の各候補者の政策アピールにおいて総合計画を引き合いに出してもらう
- ・具体的に将来像が創造できるような内容であると読んでいて楽しくなると思う
- ・市のホームページのトップページに掲載する
- ・ポスター等による周知活動
- ・定期的に掲示するようにする
- ・キャッチフレーズを放送等で連呼し続きはWEBで
- ・ポイントを絞ってページを少なくする
- ・市民の意見を取り入れた施策については、積極的にその旨記載する
- ・まず総合計画の存在を周知する必要がある
- ・市民が実感できる事例など具体的にイメージしやすく表現する
- ・様々な部署で総合計画について説明ができるようにする
- ・とっつきやすいデザインにする

(5) 次期総合計画策定にあたり、その他意見

- ・相模原市にしかない施策を盛り込む
- ・拡大路線、何でもやりますという計画は今後を見据えると無理がある
- ・職員全員が自分事とするため、一人一案運動をする
- ・評価に縛られすぎないように、流動的に動けるようにすると良いと思う
- ・今日のように、若手の意見を参考にしていけば職員の意識付けになると思う
- ・職員から匿名で意見を求めれば、良い意見が出るのではないか
- ・市民からの声をきちんと反映した計画づくりをしていけば住みやすいまちになると思う

7 参加者

1 班



課 名	氏名
こども・若者政策課	星野 彩香
緑子育て支援センター（藤野担当）	武内 ひかり
教育総務室	山本 健太
陽光園 療育相談室・発達障害支援センター	小林 太郎
教職員人事課	植木 悠仁

2 班



課 名	氏名
情報政策課	西島 将
管財課	瀬畑 明子
障害福祉サービス課	篠崎 萌南美
緑生活支援課	多良 幸人
高齢政策課	田中 典子

3 班



課 名	氏名
緊急対策課	元重 博明
消費生活総合センター	黒川 郁子
中央保健センター	齋藤 雅弥
下水道保全課	岡本 直大
危険物保安課	田村 健人

4 班



課 名	氏名
渉外課	野澤 力
資産税課	高梨 諒
都市計画課	山下 晋
道路計画課	館野 佑太

5 班



課 名	氏名
文化振興課	中山 雅人
緑区役所区政策課	山田 修司
中央区役所区民課	田中 美穂
大野北まちづくりセンター	雑賀 由美
南区役所 区政策課	吉田 良太
スポーツ課	卜部 哲

6 班



課 名	氏名
環境政策課	竹村 航
廃棄物指導課	浅沼 一行
麻溝台・新磯野地区整備事務所	藤田 大樹
下水道経営課	猪俣 亘平
下水道料金課	黄木 崇史

8 資料

(1)「総合計画の概要、相模原市の現状について」の説明資料

資料1

総合計画の策定について

(次期総合計画策定に向けた若手職員 ワークショップ用)

1

1 総合計画について

【総合計画とは】

- ・ 地方自治体が策定する自治体のすべての計画の基本となり、最上位に位置づけられる、行政運営の総合的な指針となる計画。
- ・ 市民に、将来の相模原市をどのようなまちにしていけるのかを示す「まちづくりの説明書」となるもので、市政全般の政策・施策・事業の方向性を定めているもの。

↓

本市における最上位の計画であり、市が実施する全ての事業はこの計画に則して行われている。

さがみはらの「未来の設計図」

2

1 総合計画について

【総合計画の構成】

- ・ 一般的に総合計画は、①「基本構想」②「基本計画」③「実施計画」の3段階構成でなるものが多い。
- ・ 概ね10～20年間の地域づくりの方針を示す「基本構想」、5年～10年程度の行政計画を示す「基本計画」、3年～5年間の具体的な施策を示す「実施計画」を合わせて構成されている。

【現在の相模原市の総合計画構成】

基本構想 (120 年議決、おおむね 20 年後)
⇒ 将来の都市像と政策の基本方向を定めたもの

基本計画 (122～131)
⇒ 都市像を実現するための施策の方向性を定めたもの

実施計画 (前期: 123～125、中期: 126～128、後期: 129～131)
⇒ 基本計画を計画的に推進するための具体的な事業計画

3

1 総合計画について

【総合計画の構成】

基本構想はさらに、「基本理念」「都市像」「基本目標」「政策の基本方向」に階層化している。

4

1 総合計画について

【総合計画（基本構想）策定の根拠法令】

昭和44年の地方自治法改正にて
地方自治法第2条第4項

「市町村は、その事務を処理するに当たっては、議会の議決を経てその地域における総合的かつ計画的な行政の運営を図るための基本構想を定め、これに即して行うようにしなければならない。」が定められた。

↓ 平成23年地方自治法改正

平成23年5月2日に「地方自治法の一部を改正する法律」が公布され、第2条第4項が削除された。策定及び議会の議決を経るかどうかは市の独自の判断に委ねられることとなった。

同日付けで引き続き、各自治体の判断で、地方議会の議決を経て基本構想の策定を行うことが可能である旨の総務大臣通知が出され、この通知に基づき、条例を根拠にして基本構想を策定する自治体が増えている。

5

1 総合計画について

【各自治体の総合計画（基本構想）策定の根拠法令】

〇〇市総合計画条例
〇〇市議会の議決すべき事件に関する条例
〇〇市自治基本条例
を各自治体制定 等

【相模原市の総合計画（基本構想）策定の根拠法令】

相模原市議会基本条例 11条
地方自治法第96条第2項の規定により定める議会の議決すべき事件は、次のとおりとします。

(1) 総合計画の基本構想の策定及び改廃
(2) 市民憲章の制定及び改廃
(3) 都市宣言の制定及び改廃

6

【各自治体の総合計画の構成】

[illegible]

7

【本市総合計画の策定経過】

名 称	基本計画 (目標年次)	基本計画
相模原市総合計画	S43年策定 (S60年)	S43年～S50年
相模原市総合計画	S47年議決 (S67年)	S49年～S55年
相模原市総合計画 ～新さあさら基本計画～ ※S47年議決の基本計画を継承し、基本計画を策定		S55年～S60年
第3次相模原市総合計画 ～21世紀をめざすさあさらプラン～	S59年議決 (21世紀を展望)	S61年～S75年 (H12年)
相模原市21世紀総合計画 ～新世紀めざさあさらプラン～	H10年議決 (21世紀初編)	H11年～H22年
新・相模原市総合計画	H20年議決 (平成30年度版)	H22年～H31年

2

【策定の趣旨】

- ・少子高齢化、人口減少の進行や頻発する大規模自然災害への対応など社会環境が変化
- ・相模総合補給廠の一部返還や橋本駅周辺へのリニア中央新幹線神奈川県駅設置など、市をとまりく環境に大きな変化
- ・財政は、市税等の歳入の大幅な増助が見込めない一方、福祉や医療などの社会保障等に係る歳出は増加傾向にあり、引き続き厳しい状況を想定



人や企業に選ばれ、将来にわたり市民が安全で安心して暮らせる社会を実現するため、その指針となる「次期総合計画」を策定する

9

【策定に当たっての基本姿勢】

- ### ① 多様な市民参加機会の創出

市民と行政の協働による計画づくりが進められるよう、多様な市民参加の機会を設け、市民意見の反映に努める。

- ## ② 市民にわかりやすい計画づくり

施策の達成状況を把握する指標や計画の構成などについては、市民の視点に立った分かりやすいものとするよう努める。

- ### ③ 本市の強みを生かした計画づくり

都市機能と豊かな自然を兼ね備えた本市の特性や、首都圏南西部の広域交流拠点の形成による更なる成長に向けた可能性など、本市の強みを生かした施策の展開が図れるような計画づくりに努める。

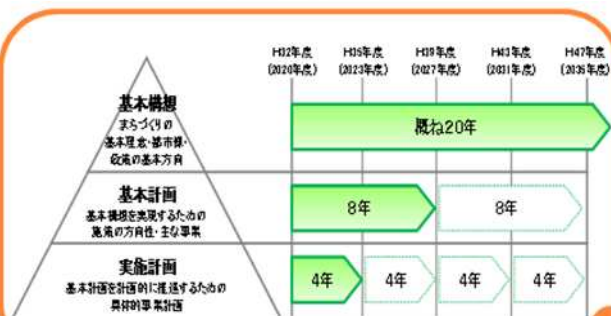
- #### ④ 持續可能な都市經營

社会保障費の増大や公共施設の高齢化への対応など、財政需要が増大する中においても効率的な行政運営や財政基盤の強化を図るなど、将来にわたり持続可能な都市経営につながる計画づくりに努める。

10

【次期総合計画の構成】

「基本構想」「基本計画」「実施計画」の3層構成



1

【策定プロセス】

- ① 総合計画審議会及び区民会議

基本構想及び基本計画については、市議会の議員、市の公共の団体等の役員、学識経験者など30人以内で構成する総合計画審議会で、区別基本計画については、まちづくり会議や公益的活動団体から推薦された者、学識経験者など25人以内で構成する各区の区民会議に諮問を行い、検討を進める。

- ## ② 市民參加

これまで以上に多様な市民参加の機会を確保することで、幅広く市民の意見を聴取し、計画に反映する。

- ### ③ 庁内検討組織

既に庁内に設置した総合計画策定会議により、全庁的な体制の下で広範な検討を行う。

12

【市民参加機會】

大學生によるフィールドワーク



13

【職員参加機會】

すべての職員が総合計画を「自分事」としてその実現に責任を持つことが重要

○市内検討組織

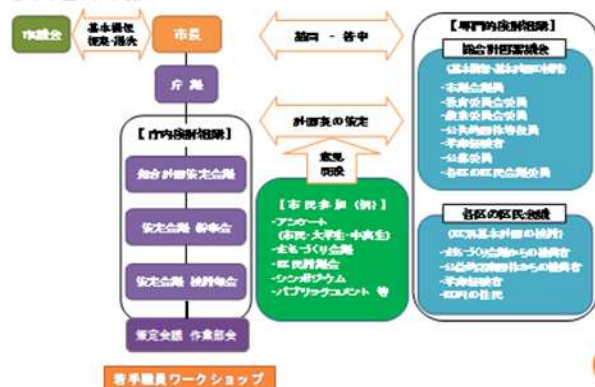
- ・策定会議（局長・部長級）
- ・幹事会（総務室長等）
- ・検討部会（所属長級）
- ・作業部会（部会長は担当課長または総括副主幹、構成員は主に副主幹～主任）

若手職員のアイデア抽出

若手職員ワークショップ

14

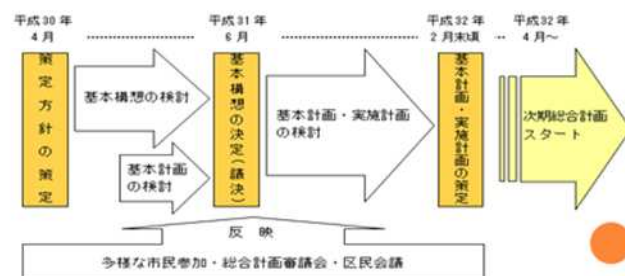
【策定体制】



15

【策定スケジュール（予定）】

- (1) 平成30年度
基本構想・基本計画の検討
- (2) 平成31年度
基本構想の決定（議決）、基本計画・実施計画の策定



16

【進行管理】

総合計画策定後、策定した計画がきちんと進んでいるか、事業が実施されているか、効果として現れているか、評価を行う。



- ### 〈1〉成果指標

市民が計画の実施目的・達成度を把握するため、施策の達成状況や市民の評価等を把握できる数値を成果指標として設定する。

例 子育て相談会の回数、相談した人の数、相談して不安が解消した人の数

- ## （2）評価体制

計画の着実な推進と適時性の確保を図るため、設定した成果指標を根拠に、施策を所管する局長・区長による内部評価（１次評価）、総合計画審議会による外部評価（２次評価）を評価し、それを踏まえて改善に取り組むことで、適切なPDCAサイクルを実施する。

また、その結果を市民に公表することで、市政運営の透明化を図る。

17

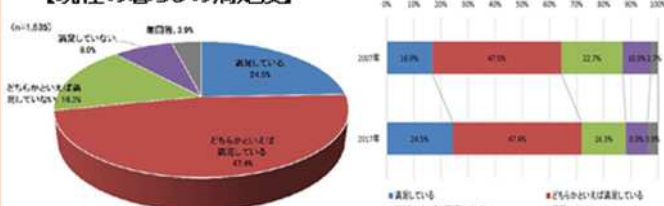
【進行管理】



18

4 市民アンケート調査の結果について

【現在の暮らしの満足度】



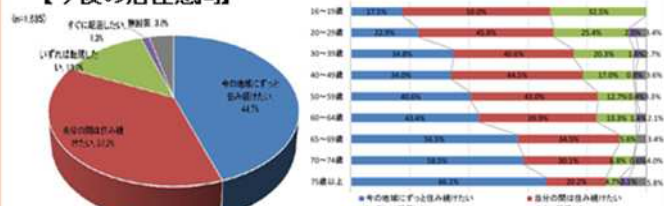
現在の暮らしの満足度は、「どちらかといえば満足している」が47.4%で最も多く、次いで「満足している」が24.5%、「どちらかといえば満足していない」が16.3%となっており、満足に感じている市民が約7割を越えている。

前総合計画策定時のアンケート調査と比較すると、2007年の「満足している」「どちらかといえば満足している」の合計が64.4%、2017年の「満足している」「どちらかといえば満足している」の合計が71.9%となっており、満足度は上昇している傾向にある。

19

4 市民アンケート調査の結果について

【今後の居住意向】



今後の居住意向は「今の地域にずっと住み続けたい」が44.7%で最も多く、次いで「自分の間は住み続けたい」「いずれは転居したい」が37.2%、「いずれは転居したい」が18.0%となっており、定住意向を持つ方が約8割を越えている。

年齢階層が若いほど、「自分の間は住み続けたい」「いずれは転居したい」と考えている方が多く、年齢階層が高くなるにつれて「今の地域にずっと住み続けたい」と考えている方が多くなる傾向にあり、若い人ほど定住意向が低い傾向が見られる。

20

4 市民アンケート調査の結果について

【相模原市の良さ】



相模原市の良さについては、「自然が豊か」「どちらかというと思う」を併せると、「自然が豊か」と思うが83.4%で最も多く、次いで「居住環境が良い」と思うが70.1%、「買い物物がしやすく便利」と思うが69.0%となっている。

一方で、「どちらかというと思うわない」「そう思わない」を合わせると、「娯楽・レジャー施設が充実している」と思わないが61.6%、「文化的・芸術的」と思わないが54.2%、「防犯・交通安全対策が充実している」と思わないが47.7%となっている。

21

4 市民アンケート調査の結果について

【今後力を入れてほしい施策】



市に対して、今後、特に力を入れてほしいと思うことは、「高齢者福祉」が44.2%で最も高く、次いで、「公共交通」が24.3%、「子育て支援」が22.9%となっている。

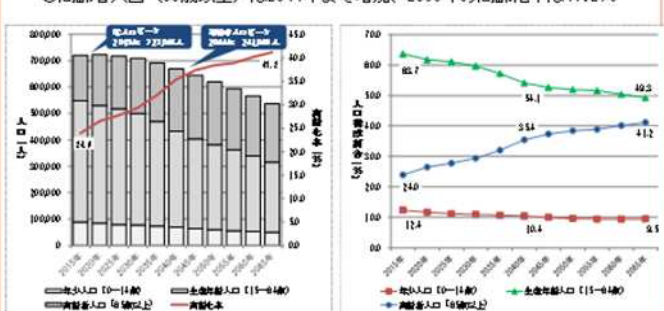
年齢階層が若いほど「子育て支援」に力を入れてほしいという意見が多く、年齢階層が高くなるにつれて、「高齢者福祉」に力を入れてほしいという意見が多い傾向が見られる。一方で「公共交通」や「防犯・交通安全」等については、どの年代においても比較的多い傾向が見られる。

22

5 人口について

【人口の推移】

- 本市の人口は2019年の723,056人をピークに減少に転じる見込み
- 2065年に538,958人まで減少し、現状の3/4程度となる（減少率25.5%）
- 年少人口（0～14歳）、生産年齢人口（15～64歳）は今後、一貫して減少
- 高齢者人口（65歳以上）は2044年まで増加、2065年の高齢化率は41.2%

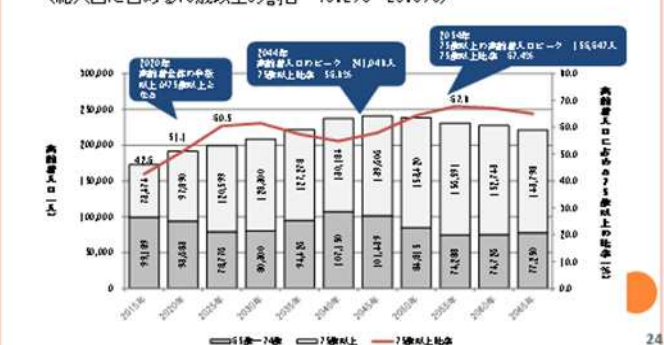


23

5 人口について

【高齢者人口の推移】

- 本市は今後、75歳以上の高齢者人口が急増する
- 高齢者人口に占める75歳以上の割合 42.8%→65.1%
- 2065年には4人に1人が75歳以上となる
- 総人口に占める75歳以上の割合 10.2%→26.8%

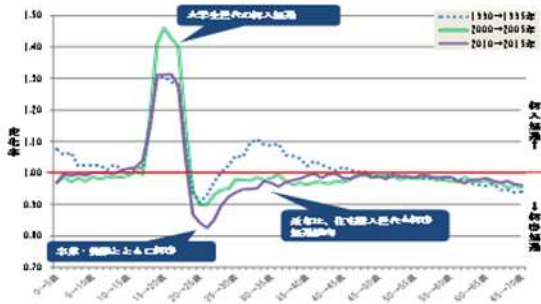


24

5 人口について

【本市の転入転出】

- 本市の転入・転出の傾向には2つの特徴がある
- 大学生世代は転入超過であるが、卒業・就職とともに転出超過となる
- 近年は、住宅購入世代が転出超過となっている
- 本市はこれまで転入超過傾向が続いているが、その傾向が弱まりつつある

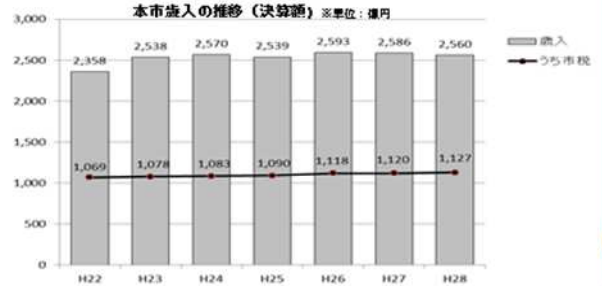


25

6 財政について

【歳入の状況】

- 近年、歳入全体として大きな増減はない
- 市税については、緩やかな景気回復基調などを反映し、増加傾向にある
- しかしながら、今後は生産年齢人口の減少の影響を受けることが想定されることから、大幅な増加は見込めない



26

6 財政について

【歳出の状況】

- 義務的経費は、扶助費を中心に増加し続けており、財政の硬直化の大きな要因となっている
- 投資的経費が減少し続けている一方、施設の老朽化への対応が必要となっており、大きな課題となっている



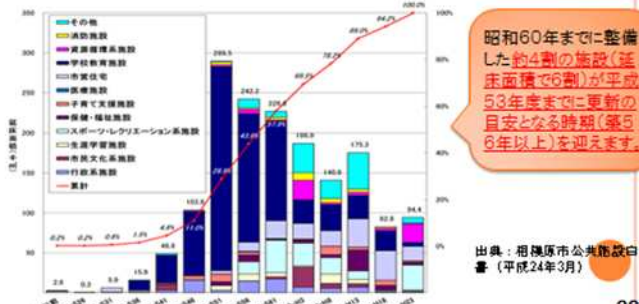
- 市税収入をはじめ、歳入の大幅な増加が期待できない一方、扶助費の増加や公共施設の老朽化による改修・更新に係る費用の増加が見込まれており、次期総合計画の期間においても、引き続き厳しい財政状況が続くと想定される
- 行政サービスの適正化、公共施設マネジメントなど、持続可能な都市経営に向けた取組を進めている

27

7 公共施設の老朽化について

【公共施設の保有状況】

- 昭和40年代から昭和50年代の人口急増にあわせ、小中学校や公民館などの多くの公共施設を整備してきた
- これらの建物の多くは、建設から30年以上を迎えるなど、老朽化が進行している



28

7 公共施設の老朽化について

【公共施設の改修・更新費用の試算】

- 現在保有している全ての公共施設を改修・更新（建替え）しようとした場合、ピーク時には、6割程度の改修・更新しかできないことが想定されるなど、これまでと同じように公共施設を維持していくことは困難



29

8 新たな都市づくりの視点について

人口減少・少子高齢化の進行、市街地の拡散・低密度化など

住民生活を支える施設のサービス提供や、
地域活力の維持が困難になる恐れ

持続可能な都市として更なる取組が必要

コンパクトシティ（まちの機能を集約した地域の拠点）・プラス・
ネットワーク（バスなどで地域をつなぐ）の都市づくり

～コンパクトシティ+ネットワークとは～

- 地域公共交通と連携したコンパクトなまちづくり
- 医療、福祉、商業施設がまとまって立地し、住民が公共交通により各種施設にアクセスできるような都市構造



- 「次期都市計画マスタープラン」の策定
- コンパクトシティ+ネットワークのまちづくりに向けた取組（立地適正化計画の策定など）

30

9 本市の沿革

- ・昭和16年 4月 相模原町誕生（2町6村合併）
人口45,482人
- ・昭和29年11月 市制施行（人口80,374人）
- ・昭和62年 8月 人口50万人到達
- ・平成 2年 3月 京王相模原線が全線開通
- ・平成15年 4月 中核市に移行
- ・平成18年 3月 津久井町・相模湖町と合併
- ・平成19年 3月 城山町・藤野町と合併
- ・平成22年 4月 政令指定都市に移行
- ・平成26年 6月 首都圏中央連絡自動車道（圏央道）
相模原愛川IC～高尾山IC間 開通
- ・平成26年 9月 相模総合補給廠一部返還（約17ha）
- ・平成26年11月 市制施行60周年
- ・平成27年 3月 圏央道相模原IC開設



(2) 参加者アンケート

『若手職員ワークショップ』アンケート

問 1 本ワークショップ参加前の総合計画に対する認識について、次の中から選んでください。

1. 記載内容を意識しながら、業務をしていた
2. 記載内容は知っているが、あまり意識して業務をしていなかった
3. 存在は知っているが、あまり読んだことはなかった
4. 存在は知っているが、読んだことはなかった
5. 全く知らなかった

問 2 総合計画はどういった機会に見ますか。（今まで見ていなかった人はこれからどういった機会に見ますか。）次の中から選んでください。（複数回答可）

1. 予算要求にむけて事業を検討・確認するとき
2. 市民に市の取組等を説明するとき
3. 市議会等で対応が求められたとき
4. 他の部署や自治体から問い合わせがあったとき
5. 自分の部署の計画を確認するとき
6. その他（ ）

問3 職員が総合計画を意識しながら業務を実施するためには、こういった工夫・取組が必要だと思いますか。アイデアがありましたら、どんなことでも自由に記入してください。

--

問 4 市民に総合計画を見てもらい、興味をもってもらうためには、こういった工夫・取組が必要だと思いますか。アイデアがありましたら、どんなことでも自由に記入してください。

--

問 5 次期総合計画策定にあたり、その他意見があれば、どんなことでも自由に記入してください。

--

◎質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

